発行　大阪府立芥川高等学校　〒569-1027　高槻市浦堂1丁目12-1　TEL　072-689-0109　http//www.osaka-c.ed.jp/akutagawa　平成17年10月20日創刊

学校新聞 芥川 創刊 二百号 記念号

学校新聞「芥川」200号発行に寄せて

校長　藤井　光正

写真はスイスの国旗です。1年間の留学を終えた生徒が、感謝の気持ちを込めてプレゼントしてくれました。フェアウェルパーティの様子は、新聞「芥川」第195号に掲載されています。生物部が飼育していたウーパールーパーの里親を募集したのは第152号、応募してくれた小学生が満面の笑みで紙面を飾ったのは第159号でした。

新聞「芥川」は、まさに芥川高校の日常。それぞれの学校園では、生徒募集や保護者連携等を目的として、ホームページやパンフレットなど多様な媒体で広報活動を行っていますが、そんな中、芥川高校では、新聞「芥川」が広報活動の中核を担ってきました。各校で広報活動に対する考え方は様々だと思いますが、本校では、生徒の日常を切り取り、それをありのままに伝えることこそが最も誠実で効果的な広報活動であると考えます。この考え方は、平成17年のサッカー部全国大会出場を契機として自発的かつ自然発生的な形で生まれ、以来、新聞「芥川」を担当した多くの教員の努力により今日まで引き継がれてきました。長きにわたり、まるで血液のような温かさと力強さを持って脈々と受け継がれ、芥川高校の伝統となったのです。そして今、新聞「芥川」は、学校、家庭、地域が密接に連携し、生徒と教員が日々正面から真摯に向き合うという本校教育の原点を映し出す鏡となり、数え切れない人と人を強い絆で結びつけています。200号は通過点に過ぎませんが、これだけのボリュームの学校新聞を発行し続けることができたのは、本校を愛し、支え導いてくださった我々の先輩達と地域の皆様方のおかげです。20年越しの夢を叶え悲願の全国制覇を果たした和太鼓部の記事は第196号。これを弾みとして、新聞「芥川」はさらなる充実をはかります。今後ともご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

座談会～芥川新聞と地域交流を語る～

藤井「まずは中嶋会長の方から、これ（学校新聞「芥川」）読んでいただいてますかね？」

①「ＰＴＡの役員会や実行委員会で月１回は回ってきますので、いつも見せていただいています。一番よく見るのは生徒が何をしているのか、特にここに載っていますクラブの勝った負けたや成績ですね。〝ここまで行ったか、がんばってるなぁ〟とか。ＰＴＡと言いましても生徒と接する機会がなかなかないので、（新聞を）見せていただいて非常にありがたいと思っています。」

藤井「なるほど。地域版としても何号か、年間５回ぐらいですかね、出させていただいているんですけれども、何か自治会の方では反響とかありますか。」

③「そうですね。こうして学校や生徒さんに頑張ってもらうことで、保護者の皆さんの地域活動への理解が進めばいいなと思います。そしてやっぱり地域に慣れてもらって１年に２、３回でも地域活動に参加してもらえたらありがたいです。新聞にも祭りのこととか、いろいろそういう地域活動を載せてもらって、地域の人たちが目的をもって学校に来ることができる仕掛けがあればいいなと思います。」

藤井「西村会長や地域の方の山本さんにフラワーガーデンをすごくきれいにしていただいて、これまで本当に荒れ地やったんですよ。それが一気にね、耕運機でやっていただいてすごく良くなりまして。まあ、地域の方と我々も連携を、ということで考えております。ここは、浦堂保育園の門を出たらすぐのところなので（浦堂保育園とも）いろいろ連携もさせてもらって、いも掘りとかいろんなことをやらしてもらって、この間は柔道教室もやらせてもらいましたけど、そんなところでうちのイメージみたいなところ、連携の在り方みたいなところをちょっと何かあればお願いします。」

②「今フラワーガーデンの話が出たんですけど、お花摘みにもね。」

藤井「あーそうでしたね。」

②「１才、２才の子がみんなひまわり持って帰ってきて、ニコニコしてましたね。先日は体育祭があって玉入れに出させていただいたんですけれども、みんなが手を振ってくれるんですよ。何でかなぁと思っていたら、（毎年、）芥川高校の２年生は保育園実習に全員が来てくださっているんですよね。その中で家庭科の選択科目を選んでいる人がさらに実習に来るということでその積み重ねがあるからか、ただ単に子ども可愛いっていうのではなくて、もう少し大きな意味で繋がりがあるふれあいをさせていただいているのかなという気がするんですね。なので、駐車場から登園してくる間も芥川高校生の自転車が通るんですけれども、そういうときでも見知らぬ高校生やったら、（自転車で）シュンと行ってしまうところを、ちょっと気にかけて気遣って通ってもらったりっていうところがあるかなぁという気がしますね。」

藤井「なるほど。新聞にも（保育園の）子どもたちの笑顔がたくさん載っていますね。」

②「いつもホームページで見させてもらってホームページの新聞を印刷してホワイトボードに貼らせてもらっています。」

②「せっかく地域の中にある芥川高校なんで、地域で高校生も育て、保育園の園児も育て、みんなでみんなを育てあうような何かこう関係づくりができたらいいなと思います。」

校長「そうですね。」

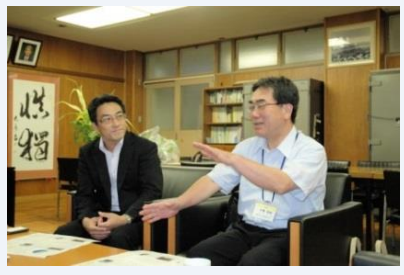
藤井「地域みんなでやろうと思ったら、やっぱり地域に溶け込んだ何かこう催しものに一緒に参画するとかね、いきなり幼稚園はしんどいから小学校４，５年からとか中学校とかね、そういう交流でいろんな地域活動ができるといいんですけどね。」

藤井「一つ僕思うのは、やっぱり防災ですね。学校の中だけで防災を考えても全く意味がない。地域の防災の活動をここでやってもらうとかですね、避難訓練でも何でもいいんやけど、そういうものに本校の生徒も参加できるという形を取ってもらうことができたらいいなと思うんです。」

藤井「そろそろ時間もまいりましたので何か他に、例えば芥川高校にこんなことを注文ということがあれば一言ずついただいて締めくくりたいと思います。どうですか。」

②「今も交流させていただいているんで、やっぱり積み重ねやと思うんでこの交流を大事につなげていって、より幅広くしていって、年寄りから子どもから、みんなで過ごす中で共生社会、フレキシブルな社会をつくっていく人材を育てていただきたいなぁと思っています。」

③「難しいけど、小学校と中学校とここと、年１回くらい学校関係の交流って、文化系も去年のあの全国大会に行った書道部が行った書道ガールのパフォーマンス、おもしろいです。女の子がでかい所にですね、音楽に合わせて書を書くんです。またそれが非常におもしろいんですけどね。和太鼓とかダンス部とは違いましても、他のクラブもそれこそ（地域の公民館とかに）行ってですね、地域のコミュニティーのやり方はやり方次第ではいくらでもありますね。夏休みなら、今回もまあ、保育園にね、書道に行くとかまあそういうのもね。」



①「文化系クラブでしたら。高校生が地域の方に書を教えるって言ったら変ですけどね。」

校長「むしろ教えてもらわなあかんのと違いますか（笑）」

①「確かに教えてもらわないとあかんですけど、そういう新しい書を若い人と（地域の方々で）交流するとか、まだまだ文化系の方もね、やりかたは多様にあると思います。」

校長「そうですね。」

①「今、書と言いましたけどね、美術、茶道もありますから、いろいろと地域の方と共通の趣味というかですね、運動部以外にもできると思いますけどね。」

③「そういう交流、そういう運動とか、そういう関係から入っていって自然に交流会みたいになっていったらね。」

校長「で、どんどん学校に来ていただいたらね、いいかなと思うんですけどね。はい、ちょうどチャイム鳴りましたので、まとまりありませんがこれで終わりたいと思います。どうも今日はありがとうございました。」

全員「ありがとうございました。」

中嶋「活発な体育系と違か何かやったら、何かそういうことができれば小学生も、中学生も芥が高校を目標にするだろうしね。この地域全体っていったらしんどいけど。」

①「一番早いのはクラブの交流ですよね。あと、高校生が中学生を指導するとか。」

座談会出席者
藤井…芥川高校校長　藤井　光正
①…ＰＴＡ会長
②…浦堂保育園副園長
③…清水地区コミュニティ　協議会会長